

令和7年度第3回石川県能登地域公共交通協議会 議事概要

日 時：令和8年3月26日（木）13：30～

場 所：のとふれあい文化センター 2階 学習室

出席者：別紙のとおり

1 開会

（石川県：三林交通総合対策監）

本日はご多忙の中、ご参集いただき感謝申し上げます。能登半島地震から早2年3か月が経過しようとしている。本格的な復興を今後果たしていくためにも、持続可能な公共交通を構築していくことが重要だと認識している。

第2回石川県能登地域公共交通協議会で皆様からいただいたご意見を踏まえ、修正した石川県能登地域公共交通計画（第二次計画）の案を本日お示しする。意見交換の上、ご承認をいただきたい。また、モデル事業として国から支援に向けて取り組んでいる AI オンデマンド交通の取組状況及び協議会で今後取り組む事項についても説明させていただく。忌憚のないご意見をいただきたい。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

2 会長挨拶

（高山会長）

本日は天気あまりよくないものの、昨日、一昨日は少し天気も良く、徐々に春の兆しが見えてきた。天気予報によると金沢市では、明後日が桜の開花であり、4月3日が満開の予報である。私が大学に入学した昭和48年は、4月10日頃が入学式であったが、ちょうど入学式の頃が満開時期であった。今から考えると、地球温暖化の影響か、ここ50年で桜の開花時期が1週間程度早まっているように感じている。あまり喜ばしいことではないが、人間は不思議なもので、桜が咲くとウキウキして外に出たくなり、夜になると一杯飲みたい気持ちにもなる。

本日は事務局のお話にあった通り、今年度最後の協議会である。昨年度には第一次計画をまとめていただいた。今年度は第二次計画をまとめ、第一次計画、第二次計画をあわせて、石川県能登地域公共交通計画として取りまとめることとなっている。本日はその最終回であるため、内容の確認を今一度お願いしたい。また、来年度の事業として令和8年度の事業計画と予算案についても、それぞれ内容を吟味し、ご審議をお願いしたい。

能登半島地震から2年3か月、奥能登豪雨から1年半経過した。少しずつ復興は進んでいるものの、のと里山海道はまだ凸凹した状況である。公費解体した更地も草が生え、建物が新たに立つという状況にもなかなかないようである。このような状況下で、石川県が掲げる創造的復興を進めていくためには、地域公共交通をしっかりと維持していくことが、基本中の基本である。ぜひ、計画が実りあるものとなるよう、内容の確認をお願いしたい。

3 議事等

- (1) 石川県能登地域公共交通計画等について・・・・・・・・・・資料1
(議案1) 石川県能登地域公共交通計画(案)
- (2) 「交通空白」解消パイロット・プロジェクトについて・・・・・・・・・・資料2

(高山会長)

能登町の説明の中で、観光客を含めて誰でも利用できる形を検討しているという説明があったが、他の市町も同様であるか。

(能登町を除く奥能登3市町)

能登町同様に観光客含め誰でも利用できる形を検討している。

(高山会長)

市町をまたぐ移動に関する説明がなかったが、市町をまたぐ移動はどのようになっているのか。

(事務局)

令和9年度以降に、市町をまたぐ移動に関する検討を予定している。市町内の移動が7、8割を占めており、市町をまたぐ移動は10%程度と多くはないと認識している。また、市町をまたぐバス路線等も存在しているため、まずは各市町の中での実証運行を来年度の秋から開始し、市町をまたぐ移動については、令和9年度以降に検討を行うことを計画している。

(高山会長)

他にご意見がないようなので採決に移りたい。原案通り議案1について承認することで異議はないか。

全員異議なく承認

- (3) 令和8年度 協議会事業計画・予算(案)について・・・・・・・・・・資料3
(議案2) 令和8年度 事業計画(案)
(議案3) 令和8年度 歳入歳出一般会計予算(案)

(高山会長)

ただいま、事務局から説明があった内容についてご意見、ご質問のある委員は挙手をお願いします。

(北陸信越運輸局：大村課長)

交通モード研究会について提案していただいたため、来年度以降も引き続き、先進事例の調査や交通空白解消に向けた予算の紹介など、当局が力になれるところはしっかりと支援したい。能登半島地震後、パイロット・プロジェクト含め、国としても一体となって精力的に支援させていただいているが、あくまでもAI オンデマンド交通は最初の一手であり、奥能登の創造的復興がこれだけでなされるわけではない。これに限らず既存公共交通の見直し、分担も含めて当局も議論

に参加させていただきながら検討を進めていきたい。本日の協議会が終わったあと、当局主催のシンポジウムを開催し、これまでの取組と今後の方向性も含めて紹介する。お時間のある方はご聴講いただければ幸いである。

(高山会長)

非常にぎっくりとした事業計画案となっているが、研究会やワーキンググループの開催回数ほどの程度を予定しているのか。1回きりの開催ではなく、最低でも2回ずつは開催してほしい。本当は四半期ごとの開催が望ましいが、皆様忙しく、事務局の負担も大きいと感じる。事務局の腹積もりをお聞きしたい。

(事務局)

協議会は進捗状況の確認、事業評価、予算決算があるので必ず1回はやらなければならない。書面開催等になるかもしれないが、必要に応じて開催していきたい。ワーキンググループについては、AI オンデマンド交通や広域運営体制作りの検討、また既存交通モードも含めた再編の検討など様々なテーマがあるため、しっかりと回数を重ねていく。少なくとも1、2回で終わるものではないと考えている。

(珠洲市：金田副市長)

第1回、第2回の協議会でも発言したが、計画策定はゴールではなくスタートである。今の説明だと必要に応じてというのは後ろ向きにしか聞こえない。せめてこれくらいやりますと言って欲しい。そうしなければ、忙しいから、タイミングがないからとなり、1年1回の開催にしか結局ならないのではないのか。申し訳ないが、これまでのことを踏まえると容易に想像ができてしまう。もう少し自治体に熱量を感じさせるようなお話をお願いしたい。

(事務局)

先ほどのコメントはバランスをとった回答であったが、必要に応じてというのは、回数ありきの開催ではないという趣旨である。県が初めて広域公共交通に参画し、協議会やワーキンググループも立ち上がった。これまでもシステムの構築に向け、ワーキンググループを何度も開催している。ワーキンググループを活用していくことが大事だと考えており、議題となっている交通分担の役割、実証運行に関する情報共有、運営体制作り等も含めて協議会の仕組みを活用していきたい。

(高山会長)

心強い宣言であった。私の要望はもうひとつ。新たに立ち上がった研究会や既存ワーキンググループの議事要旨は、委員への開示もしくは協議会での説明を少なくともすべきではないか。去年ワーキンググループが何回開催されたのか、私は把握できていない。そういう意味では、きちんと説明をしていただきたい。

(事務局)

ワーキンググループは奥能登と中能登でそれぞれある。今年度は、奥能登ではワーキンググループを合計6回開催し、AI オンデマンド交通の事業者の選定やシステム要件の決定、広域運営体制等、様々な検討を進めてきた。中能登ではワーキンググループを2回開催し、バスの状況や市

町の考え、AI オンデマンド交通等も含めて確認して話し合った。内々の話もあるため、内容をつまびらかには申し上げられないが、今後も引き続き開催していきたい。また、研究会も立ち上げるため、より実質的な議論をしていきたい。

(石川県高等学校 PTA 連合会：新谷委員)

第1回協議会に参加した際に、路線バスを高校生が利用しやすい時間帯にしてほしいと要望した。3月のダイヤ改正で高校生が利用しやすくなり、この協議会のメリットであると認識した。これからパイロット・プロジェクトでAI オンデマンド交通を導入する際にも、高校生が利用しやすいものとしてほしい。

(高山会長)

議案2, 3は密接に関係するので合わせて承認をとりたい。原案通り議案2, 3について承認することで異議はないか。

全員異議なく承認

(4) 令和7年度 地域公共交通再構築調査事業の評価について(のと鉄道)・・・資料4

(5) のと鉄道令和8年度鉄道事業再構築事業について・・・・・・・・・・資料5

(高山会長)

ただいま、事務局から説明があった内容についてご意見、ご質問のある委員は挙手をお願いする。

質問なし

(6) 「地域公共交通確保維持事業(地域間幹線系統確保維持費国庫補助金)」にかかる石川県能登地域公共交通計画別紙の変更(案)について・・・・・・・・・・資料6

(議案4) 石川県能登地域公共交通計画別紙(変更案)

(高山会長)

ただいま、事務局から説明があった内容についてご意見、ご質問のある委員は挙手をお願いする。

質問なし

(高山会長)

形式的な変更であるため、特にご意見はないかと思う。原案通り議案4について承認することで異議はないか。

全員異議なく承認

4 意見交換

(高山会長)

さきほど高等学校 PTA 連合会の方の発言にあった通り、この場で出た要望が実際の運用に活かされ、公共交通がより良いものになっていく。そのためにも、住民の方や運行事業者の声は非常に重要であると認識している。だからこそ、この協議会には行政だけでなく、住民代表や高齢者の代表、運行事業者の代表の方にもお集まりいただいている。普段言えないことも県に要望できるせっかくの機会であるが発言はあるか。

特に意見が無いようであるので、私から話をさせていただく。今年度最後の協議会であるため、私の思い、願いについて話させていただく。道路や交通、救急医療等について長年研究してきた中で常々思っていることは、人口が減少し、過疎化が進み、高齢化が進むにつれて、一番困るのは自分で足を持っていない高齢者と高校生を含めた子供たちである。私も高校時代には、自転車で森本駅まで行き、気動車やバスを乗り継ぎ、高校まで通っていた。雨が降った際には自転車を置いていったことで、自転車を盗まれたこともあり、親に叱られた記憶がある。今も昔も高校生を取り巻く環境にあまり変化はない。自転車が盗まれてしまった際には、不便な生活もしていた。そのことを思うと、公共交通がなくなることは、高校生だけでなく様々な人にとって非常に大変なことである。

今回、能登半島地震や豪雨によって生活が一変した。様々な形で大変な時期に、行政も事業者も努力をしているが、それでも充分ではなく、最低限の、決して満足できるようなサービスではないと感じている。もう少しやれることがあるのではないかと思う。今回、県が事務局となり一生懸命進めてきたことは、とても喜ばしいことである。これまで、県に求めてきたがなかなか前向きな回答は得られなかった。そういう意味では、こういう大きな災害があったからこそ、県が一步前に出て、一生懸命頑張ってくれているように感じる。今後も協議会が続く間は、事務局として下支えしていただきたい。また、市町や交通事業者も一丸となり、能登地域全体の公共交通が維持されていくことを願っている。今回の計画はそのためのものであると認識しているため、ぜひ計画どおりにうまくいくことを皆様と一緒に進めていきたい。

この後の進行は事務局にお任せする。

5 閉会

(石川県：小林交通政策課長)

一昨年の8月に開催された第1回協議会から、長きにわたりご協議をいただいたこと、感謝申し上げます。本日も承認いただいた計画をより実効性のあるものにしていくためには、皆様のご協力が不可欠であると認識している。本日はお忙しい中お集まりいただき、感謝申し上げます。これにて本協議会を終了する。

以 上

